

リハビリテーション医学

担当講座	リハビリテーション医学講座	問合せ先	リハビリテーション医学講座
分野責任者	西村 行秀 教授	連絡先	西村教授室 内線3733
担当教員	西村 行秀 教授		
人材育成の 基本理念	リハビリテーション医療に係る疾患の病因・病態の知識を修得、治験を究明し、診療に活用できる人材を育成する。		
主な研究内容	リハビリテーション医学・医療についての効果、リハビリテーション治療の効果についての研究をおこなう。		
教育成果 (アウトカム)	教育成果	該当するディプロマポリシー	
	リハビリテーション医学に重要な解剖学的な知識や生理学的な知識を深め、リハビリテーション治療の効果を生み出すことができる。リハビリテーション医学の基礎研究ならびに臨床研究を行うことにより、リハビリテーション医学に精通した全人的な療法士になることができる。		1,2,3,4,5,6
到達目標	到達目標	対象科目	
	(1)生命科学や、医療行為のための基本的な知識・技能を活用できる。	医学概論、リハビリテーション医学特論	
	(2)計画に従って適切な研究を実施できる。	特別研究Ⅰ・Ⅱ、リハビリテーション医学特論	
	(3)研究結果を適切にまとめ、発表できる。	特別研究Ⅰ・Ⅱ、リハビリテーション医学特論	
	(4)高い専門知識や熟練した技能・技術で、多職種連携業務に貢献できる。	多職種連携チーム医療、リハビリテーション医学特論	
	(5)次世代の育成に貢献できる。	特別研究Ⅰ・Ⅱ	
	(6)リハビリテーション医学の基礎的知識を明確かつ平易に説明できる。	リハビリテーション医学基礎修練１・２	
	(7)理学療法、作業療法、言語聴覚療法の効果と特性を説明できる。	リハビリテーション医学基礎修練３・４	
	(8)リハビリテーション治療の効果を十分に説明できる。	リハビリテーション医学基礎修練３・４	
	(9)リハビリテーション医学に関する基礎研究ならびに臨床研究を行うことにより、リハビリテーション治療に反映できる。	リハビリテーション医学基礎修練３・４	
	(10)障がい者スポーツに関する基礎研究ならびに臨床研究を行うことにより、障がい者スポーツに反映できる。	リハビリテーション医学基礎修練３・４	
資格取得等			
履修に関する 情報	社会人大学院生など、勤務等で授業に参加できない場合は、日程調整に応じる。（問い合わせ先：リハビリテーション医学講座 内線3733）		

●在学中に履修できるカリキュラム

区分		配当年次	科目名		開講	コマ数	単位	修了までに 必要な単位	備考
研究 特 論	選 択 必 修	1 年	演習	リハビリテーション医学基礎修練 1	通年	30コマ	4	20単位	
		1 年	演習	リハビリテーション医学基礎修練 2	通年	30コマ	4		
		2年	演習	リハビリテーション医学基礎修練 3	通年	30コマ	4		
		2年	演習	リハビリテーション医学基礎修練 4	通年	30コマ	4		
		1・2年	講義	リハビリテーション医学特論	通年	30コマ	4		
特 別 研 究	必 修	1 年		特別研究Ⅰ（中間審査）	通年	15コマ	2	4単位	
		2年		特別研究Ⅱ（論文作成）	通年	15コマ	2		

※他分野の単位取得は分野責任者に相談の上、教務課へ連絡してください。

●各科目の授業計画

リハビリテーション医学

コード	MM12251010					MM12251020					MM12251030					MM12251040				
科目	リハビリテーション医学基礎修練 1					リハビリテーション医学基礎修練 2					リハビリテーション医学基礎修練 3					リハビリテーション医学基礎修練 4				
科目責任者	西村行秀					西村行秀					西村行秀					西村行秀				
担当者	西村行秀					西村行秀					西村行秀					西村行秀				
会場	病院3F リハビリテーション室					病院3F リハビリテーション室					病院3F リハビリテーション室					病院3F リハビリテーション室				
区分等	区分	演習		単位	4	区分	演習		単位	4	区分	演習		単位	4	区分	演習		単位	4
	回数	通年30コマ		配当年次	1	回数	通年30コマ		配当年次	1	回数	通年30コマ		配当年次	2	回数	通年30コマ		配当年次	2
主な授業内容	リハビリテーション医学に重要な解剖学的な知識や生理学的な知識を深め、基本的なリハビリテーション治療の効果を生み出すことが出来る。リハビリテーション医学の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、基本的なリハビリテーション医学に精通した全人的な療法士になることが出来る。					リハビリテーション医学に重要な解剖学的な知識や生理学的な知識を深め、専門的なリハビリテーション治療の効果を生み出すことが出来る。リハビリテーション医学の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、専門的なリハビリテーション医学に精通した全人的な療法士になることが出来る。					リハビリテーション医療について学び、その基本的な病態と診断・治療が理解できるようになる。					リハビリテーション医療について学び、その専門的な病態と診断・治療が理解できるようになる。				
教育成果	リハビリテーション医学に重要な解剖学的な知識や生理学的な知識を深め、基本的なリハビリテーション治療の効果を生み出すことが出来る。リハビリテーション医学の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、基本的なリハビリテーション医学に精通した全人的な療法士になることが出来る。					リハビリテーション医学に重要な解剖学的な知識や生理学的な知識を深め、専門的なリハビリテーション治療の効果を生み出すことが出来る。リハビリテーション医学の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、専門的なリハビリテーション医学に精通した全人的な療法士になることが出来る。					リハビリテーション医療について学び、その基本的な病態と診断・治療が理解できるようになる。					リハビリテーション医療について学び、その専門的な病態と診断・治療が理解できるようになる。				
コンビテンス番号/達成度	コンビテンス1 C	コンビテンス2 C	コンビテンス3 C	コンビテンス4 C	コンビテンス5 C	コンビテンス1 B	コンビテンス2 B	コンビテンス3 B	コンビテンス4 B	コンビテンス5 B	コンビテンス1 B	コンビテンス2 B	コンビテンス3 B	コンビテンス4 B	コンビテンス5 B	コンビテンス1 A	コンビテンス2 A	コンビテンス3 A	コンビテンス4 A	コンビテンス5 A
	コンビテンス6 C					コンビテンス6 B					コンビテンス6 B					コンビテンス6 A				
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
評価方法	「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																				

コード	MM12251050					MM12259010					MM12259020									
科目	リハビリテーション医学特論					特別研究Ⅰ					特別研究Ⅱ									
科目責任者	西村行秀					各（正）指導教員					各（正）指導教員									
担当者	西村行秀					各指導教員					各指導教員									
会場	病院3F リハビリテーション室					各指導教員と相談の上決定					各指導教員と相談の上決定									
区分等	区分	講義		単位	4	区分	演習		単位	2	区分	演習		単位	2					
	回数	通年30コマ		配当年次	1～2	回数	通年15コマ		配当年次	1	回数	通年15コマ		配当年次	2					
主な授業内容	リハビリテーション医学に必要な医学的知識および英語論文の書き方					・生命科学や研究手法の基礎的な知識 ・研究計画調書の作成 ・中間審査の準備					・生命科学や研究手法の専門的、発展的な知識 ・論文作成 ・最終試験の準備									
教育成果	リハビリテーション医学を学びリハビリテーション医学に関する研究、論文作成ができるようになる。					生命科学や研究手法の基礎的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。 ＜中間審査＞1 年次末までに実施。研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調書に基づき、研究の概要及び進捗状況について口答で説明し、現在に至るまでの過程及び初期審査時の目標の達成度等について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。					生命科学や研究手法の専門的な知識を身につける。最終試験に向けて、情報を適切に分析し、論旨を展開できる。 ＜論文作成＞ 学位申請までに実施。 論文作成に向けたデータ収集や解釈、図譜の作成や記載ができ、論文が作成できる。									
コンビテンス番号/達成度	コンビテンス1 A	コンビテンス2 A	コンビテンス3 A	コンビテンス4 A	コンビテンス5 A	コンビテンス1 B	コンビテンス2 B	コンビテンス3 B	コンビテンス4 B	コンビテンス5 B	コンビテンス1 A	コンビテンス2 A	コンビテンス3 A	コンビテンス4 A	コンビテンス5 A					
	コンビテンス6 A					コンビテンス6 B					コンビテンス6 A									
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。					各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 中間審査の詳細は、「中間審査の手引き」を参照。					各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 最終試験の詳細は、「最終試験の手引き」を参照。									
評価方法	「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。					「受講票」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。														
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																				

●時間割

リハビリテーション医学

【前期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20		リハビリテーション医学基礎修練1				基礎科目
2 限	10：30～12：00		リハビリテーション医学基礎修練2				
3 限	13：00～14：30		リハビリテーション医学基礎修練3				
4 限	14：40～16：10		リハビリテーション医学基礎修練4				
5 限	18：00～19：30		リハビリテーション医学特論				
6 限	19：40～21：10		特別研究Ⅰ・Ⅱ				
【後期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20		リハビリテーション医学基礎修練1				基礎科目
2 限	10：30～12：00		リハビリテーション医学基礎修練2				
3 限	13：00～14：30		リハビリテーション医学基礎修練3				
4 限	14：40～16：10		リハビリテーション医学基礎修練4				
5 限	18：00～19：30		リハビリテーション医学特論				
6 限	19：40～21：10		特別研究Ⅰ・Ⅱ				

<履修スケジュール> ※各自記録してください。

【前期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10						
5 限	18：00～19：30						
6 限	19：40～21：10						

【後期】	講義時間	月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10						
5 限	18：00～19：30						
6 限	19：40～21：10						